

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653034

研究課題名(和文) 政治家の選挙キャンペーン戦略とその活動実態に関する研究

研究課題名(英文) A study of strategies and activities of local politicians' electoral campaigns

研究代表者

品田 裕 (SHINADA, YUTAKA)

神戸大学・法学(政治学)研究科(研究院)・教授

研究者番号：10226136

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：変容しつつある日本の政治と社会に対応して、政治家の選挙活動のあり方も変化している。本研究は、選挙戦における地方政治家の集票活動に注目し、その戦略と活動内容を記述するとともに、新しい調査や分析の手法を試験的に実施し、以後の本格研究の基礎を築くことを目的として実施した。研究の結果、地方議員の集票活動の実態の一環に関し、知識を蓄積するとともに、今後の研究方法に一定の展望を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：As changing society and politics in recent Japan, campaign styles of politicians also have evolved. Purposes of this research are (1) describing strategies and activities of local politicians' electoral campaigns and (2) testing new methods of research and analyses to prepare for our full-scale study. As a consequence, we could obtain knowledge about facts and perspectives about future approaches.

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：日本政治分析 選挙キャンペーン 地方政治

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 90年代以降の日本の選挙政治は大きな変革期にあった。選挙制度改革をはじめ、構造改革や地方分権改革、市町村合併など連続する制度面での変革は政治家の選挙戦略に根本的な変更を強いた。

他方、社会の利益やその構造も急速に変容し、無党派の増大や政策指向の高まり等、有権者にも変化が観察されていた。同時に急速な高齢化、地方の疲弊、情報通信の発達などの社会変化も生じつつあった。このような新しい状況に対し、政治家は自らの当選確率を高めるためにどのように適応しようとしているのか、つまり有権者との間にどのような手段でどのような関係を築こうとしているのか、この点を選挙キャンペーンのあり方を通じ明らかにしたいというのが本研究の出発点であった。

(2) 申請者は、過去に参加した共同研究の成果から新たな研究計画の必要性を痛感していた。例えば、政党組織の動態を地方から明らかにしようとした共同研究では、その過程で、議員やその支援者を軸に集票戦略や活動実態を解明することの有用性を感じた。また政権交代期の各選挙区の実態を検討する機会を得た際には、キャンペーンを分析する視覚として、政治家の側から注目すること、また質的な研究を蓄積していくことの必要性を認識した。

(3) 政治と社会の接点としての選挙戦を描く研究は Fenno(1978)以来、多く存在し、日本でも、カーティス(1969)、大嶽(1997)、朴(2000)などの参与観察、あるいは山田真裕の後援会研究などの蓄積がある。また投票行動研究は数多くなされてきた。ただ政治家の集票戦略という視点については、十分に焦点を絞れていない感がある。94年の制度改革から十分な時間が経ち、その効果をはっきりと観察できるようになった現在にこそ、新たな調査が必要であると考えられる。

(4) 従来の集票活動に注目した研究は、一つの陣営に密着するタイプが多く、情報量が多いが比較は難しいことが多かった。情報量を維持し実態の記述に努める一方、比較に対し自覚的に備えた質的研究を行い、あるいはテキストマイニングやネットワーク分析といった新しい手法にも目を配ることで、新たな知見、あるいは量的分析との融合可能性を探ることができるのではと考えた。以上の関心を実現する研究を本格的に開始する準備段階として、この研究計画を開始することとした。

## 2. 研究の目的

政治家の選挙活動は、その時々政治と社会のあり方に最適に発達してきた。現在、大きく変容しつつある日本の政治と社会に対応して、選挙活動のあり方も変化していると考えられる。現代において政治家の選挙活動はどのような戦略の下でどのように実行されているのであろうか。

本研究は、選挙戦における政治家の集票活動に注目し、その戦略と活動内容を、その背景となっている社会経済状況とともに詳細に記述するとともに、政治家などから行った聞き取り調査をテキストデータ化した上で、それらを利用した新しい分析手法を試験的に実施し、以後の本格研究の基礎を築くことを目的とする。

具体的には、

(1) 市町村議会議員や都道府県議会議員など各レベルの政治家について集票戦略・活動を詳細に調査・記録すること、また、

(2) 本格調査に備え、聞き取り調査の方法等を確立するとともに、変数を検討し仮説を構築すること、さらに

(3) 上記データを加工すると共に、新しい分析手法の適用可能性を見極めることを目的とする。

## 3. 研究の方法

現在、進みつつある日本の社会と政治の変容に伴い、政治家が有権者の支持を集め、票を得る方法も、大きく変わりつつある。本研究は、選挙戦における政治家の集票活動に注目し、その戦略と活動内容を、その背景となっている社会経済状況や歴史的経緯とともに理解しつつ、政治家などから聞き取り調査を実施しデータ化を進めること、また、分析手法の試行などを通じ今後の研究活動の基礎を築くことを目的とした。

そのために、都道府県議会議員・市議会議員など各レベルの政治家について、その集票戦略・活動に関する聞き取り調査を行い、その記録を行うとともに、本格調査に備え、聞き取り調査の方法・データの作成加工方法・さまざまな分析手法の適用可能性の検討に取り組んだ。

本計画で実施した聞き取り調査の対象者は、地方議員が主であり、兵庫県下を中心に、かなりのデータを得ることができた。特に近接地からは繰り返し聞き取りができた。また、当初計画の範囲外ではあるが、ブログなどの

SNSからも情報を得ることができ、今後の新たな研究可能性を見出すことができた。さらに全国的な地方議員へのサーベイデータ等と、相互に知見の妥当性を確認することができた。なお、今回の試行的な調査では、ジャーナリストや選挙管理委員会関係者なども対象とした。政治家を取り巻く状況を複眼的に理解するためである。

聞取調査では、政治家の日常活動や政治活動の内容・頻度・接触相手・意図、支持団体との関係、他のレベルの政治家との関係などにも注意を払い、各地の社会経済情報など背景に関しても十分留意するよう心がけた。調査の一部はデータ化され、それらを基に、変数・分析方法・仮説等を検討した。方法論上の試みとしては、新しい分析手法を取り入れるため、内容分析・インタビュー技法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ等の分析手法について、文献を入手し、一部、実験的に試用しながら、今後の有効性について検討した。

また、選挙活動におけるインターネット解禁が急遽、話題になったため、部分的にはあるが、調査・検討を行った。今後は、全国いくつかの地点での調査を拡大的に実施するとともに、中長期的には、それに基づく計量分析にも取り組み、得られた知見をより確かなものにすることを考えている。

#### 4. 研究成果

聞取調査については、専ら地方議員とジャーナリスト・選挙管理委員会関係者を対象に行った。近畿地方を中心に、遠隔地も含め、一定数を確保できた。近接地では繰り返しの面談を行った。地方議員としては、市議員が多くを占めた。そこでは、政治家の日常活動や政治活動の内容・頻度・接触相手・意図等について聞くように努めた。支援団体との関係や他のレベルの政治家との協力関係も訊くよう努めた。聞取調査は、基本的に代表者が行った。また、大学院生を介して、ある市の市議員全員に対し行われた集票活動等に関する調査に接することができた。

これらの調査では、当初予定に反して、面談内容を録音できなかったことがあり、その場合にも満足できるレベルの詳しいメモを全て作れたわけではなく、今後の課題となった。

しかし、これらから得た貴重な知見は、今後、分析を進め、変数・分析方法・仮説を検討する際に、大いに参考になるものと期待で

きる。

また、選挙活動におけるインターネット解禁が急遽、話題になったため、部分的にはあるが、調査・検討を行った。

方法論上の試みとしては、新しい分析手法を取り入れるため、テキストマイニング・ネットワーク分析・内容分析・インタビュー技法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ等の分析手法について、文献を入手し、一部、実験的に試用しながら、今後、研究に導入することの可能性やその際の注意点について検討した。

以上の活動の結果、従来より行ってきた都道府県議会議員調査の解説、都道府県議会議員の集票活動を明らかにしたもの、民主党の2012年総選挙の惨敗を選挙の観点からスケッチしたもの、選挙管理委員会の観点から選挙活動を検討したものなどを発表し、また地方議員の集票活動の実態の一環に関し知識を蓄積すると共に、今後の研究方法に一定の展望を得ることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

増山幹高・品田裕「変革期の選挙区政治」、レヴァイアサン、査読無、52号、2013年、pp.6-7

品田裕「民主党の失敗」、ブリタニカ国際年鑑、査読無、2013年版、2013年、pp.338-341

品田裕・曾我謙悟・建林正彦「全国都道府県議会議員調査 調査結果報告」神戸法学雑誌、査読無、62巻3・4号、2013年、pp.57-98

品田裕「都道府県議会議員の支持基盤」レヴァイアサン、査読無、51号、2012年、pp.10-32

[学会発表](計0件)

[図書](計2件)

品田裕、有斐閣、「日本の選挙管理委員会について」大西裕(編)『選挙管理の政治学』第6章、2013、270(129-150)

品田裕、21世紀政策研究所、「党政治と選挙制度の課題(2)選挙区レベルの投票行動と最近の選挙制度の問題」21世紀政策研究所報告書『政権交代時代の政府と政党のガバナンス』、2012、155(115-127)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

品田 裕 (SHINADA, Yutaka)  
神戸大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号：10226136

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：